

子安延命地藏尊例大祭4年ぶりの開催

見たい聞きたい知らせ隊 Q 隊員が行く!

VOL.3



なんでここに子安延命地藏尊?
こやすえんめいじそうせん
この地藏尊は子どもを抱えているところから「子安地藏尊」と呼ばれています。子安延命地藏尊世話人会の塚野さんによると、江戸時代の天保初年(1831年)頃に、日本廻国の六部(六十六部の略で霊場を回って経を納めた行者)が現在の五泉市の吉沢で数日宿泊したのちに旅を続け、4〜5年の歳月を経て、再びお札を言い寄り道すると、宿泊先だった伝さん一家が全員亡くなっていたといいます。そこで地藏尊を建立することを発願され、土倉山(現・加茂市)で発見した大石を使い、下絵は五泉の仏師大橋翁の手によったといわれ、現地で彫られました。数百人の六部と多くの善男善女により、3〜4年間かけて運ばれて現在の粟島公園近くの大川前に安置されたもので、全国にも珍しい大石仏です。昭和43(1968)年道路拡張のため粟島公園内に遷座され、同年に五泉市が彫刻の有形文化財に指定し、世話人会も発足されました。毎年8月23日に例大祭が開催され、新型コロナウイルスの影響で3年間中止されましたが、2023年が4年ぶりの開催になりました。

子どもが3人いる?
五泉市の吉沢で六部を数日お泊りさせた伝さんの家にはご夫婦と3人のお子さんがいたとのことから、子どもが3人一緒に彫刻されました。地藏尊の左手側に2人、錫杖をもつ右手の下あたりにもう1人います。地藏尊と同じく帽子と胸掛けがついているのは1人のみ、ほか2人は時と共に目立たなくなっていますが、ぜひよく見てみてください。実はもう一体、特別な時にしか登場しない、小さな地藏尊がこの日出されています。上の写真に写っているとおり、地藏尊の左下にもう一体地藏尊が置かれていて、毎年8月23日の例大祭、そして4月23日の戸開け、10月23日の戸閉めの時にのみ出されて祀られます。大きい地藏尊の横に置かれると、可愛らしさも感じました。



「発行」令和5(2023)年9月4日
「作成」五泉市地域おこし協力隊 邱子菁
◎取材にご協力くださった皆さま、
ありがとうございます!

例大祭当日の様子

事前にのぼり旗の設置を経て、8月23日例大祭当日は子安延命地藏尊世話人会が朝から会場の準備を行います。おみこくとして、昔はだんごなどを作ったそうですが、現在は個包装のお菓子が用意されます。コロナ前まで行われていた人が輪になって、大きな数珠を回しながら行う「百万遍念仏」は今年行わず、午後6時半頃になると、百観音院のご住職と共に、地藏尊講中が念仏を行いました。残暑が続く中、この日は夜風も吹いて、参拝者が次から次へと来られました。

地元からの愛と信頼

世話人会に話を伺うと、子どもが健やかに育つようにと毎朝来る親、家族の身体健康を祈る人、お賽銭箱に志望校を書いて入れる学生など、幅広い年齢層に信頼を寄せられている話を聞いて、きっと昔からたくさんの方の心の声を受け入れたに違いないと思います。

編集後記



例大祭当日は気持ち良い夜風で紅白幕が風で上がり、ライトに照らされた地藏尊の表情が良くて、目がはつきり開いたように見えました。大きくて穏やかな地藏尊はこれから五泉市の人たちを見守り続けると思います。

